

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-154148

(P2012-154148A)

(43) 公開日 平成24年8月16日(2012.8.16)

(51) Int.Cl.
E01C 19/23 (2006.01)F1
E01C 19/23テーマコード (参考)
2D052

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2011-16519 (P2011-16519)
(22) 出願日 平成23年1月28日 (2011.1.28)(71) 出願人 000005522
日立建機株式会社
東京都文京区後楽二丁目5番1号
(74) 代理人 100090022
弁理士 長門 侃二
(72) 発明者 海藤 勉
山形県東根市大字若木字七窪5600-1
株式会社日立建機カミーノ内
Fターム(参考) 2D052 AC01 BB01 BB05 CA21

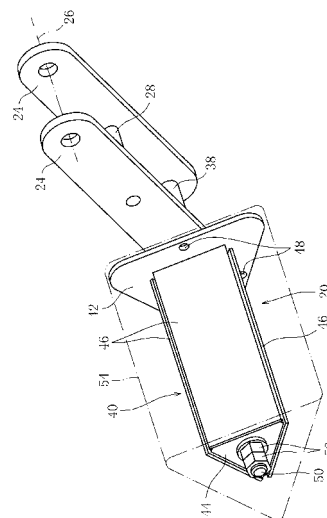
(54) 【発明の名称】 転圧機械

(57) 【要約】

【課題】 マットブラシの長寿命化を図るとともに、転圧ローラに対するマットブラシの摺接面を容易に切り換えることができ、作業性を向上させた転圧機械を提供する。

【解決手段】 車体の前後に配置され、車輪を兼用する転圧ローラと、該転圧ローラに摺接する摺接面を有するマットブラシ54と、前記車体に揺動部材24を介して取り付けられ、前記マットブラシ54を保持するブラケット20とを備えた転圧機械において、前記マットブラシ54は、前記摺接面を複数有し、前記ブラケット20は、前記転圧ローラの軸心と平行に延び、周面を前記マットブラシ54で覆われる柱形状の保持部40を有し、該保持部40を前記揺動部材に対して締結する締結部材50、52を有し、前記保持部40は、前記締結部材による締結が緩められた状態で、長手方向の軸を中心に前記マットブラシ54とともに回転可能である。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

車体の前後に配置され、車輪を兼用する転圧ローラと、
該転圧ローラに摺接する摺接面を有するマットブラシと、
前記車体に揺動部材を介して取り付けられ、前記マットブラシを保持するブラケットとを備えた転圧機械において、
前記マットブラシは、前記摺接面を複数有し、
前記ブラケットは、前記転圧ローラの軸心と平行に延び、周面を前記マットブラシで覆われる柱形状の保持部を有し、
該保持部を前記揺動部材に対して締結する締結部材を有し、
前記保持部は、前記締結部材による締結が緩められた状態で、長手方向の軸を中心に前記マットブラシとともに回転可能であることを特徴とする転圧機械。

10

【請求項 2】

前記マットブラシは、前記ブラケットを覆った状態で前記ブラケットに対して結束バンドを介して固定されていることを特徴とする請求項 1 に記載の転圧機械。

【請求項 3】

前記ブラケットは、正面視で車幅内に、且つ、前記転圧ローラよりも横方向にはみ出た結束領域を有し、前記結束バンドは、前記結束領域のみに配されていることを特徴とする請求項 2 に記載の転圧機械。

20

【請求項 4】

前記マットブラシは、少なくとも一端が開口した袋形状をなし、前記保持部を覆うべく該開口にて前記保持部を受け入れ可能であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の転圧機械。

【請求項 5】

前記マットブラシは、植物繊維で形成されていることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の転圧機械。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、転圧ローラの周面に付着した付着物を掻き落とすため等に用いられるマットブラシを備えた転圧機械に関する。

30

【背景技術】**【0002】**

転圧機械用散水マットブラシ装置に関する発明が特許文献 1 に開示されている。このマットブラシ装置は、ココヤシ繊維を編んで作ったマットブラシが転圧ローラ近傍に設けたブラケットに取り付けられている。転圧作業中に、水や溶剤を含んだマットブラシを転圧ローラに対して当接させることにより、舗装合材等の転圧ローラ表面への付着を防止することができる。

【0003】

一方で、転圧ローラの付着物除去装置に関する発明が特許文献 2 に開示されている。この転圧ローラの付着物除去装置は、車輪を兼用する転圧ローラの周面に付着する付着物をスクレーパにて除去するものである。付着物除去装置は、スクレーパと、車体のフレームに支持され、転圧ローラの周面に対して接離自在に揺動し、且つスクレーパを支持する揺動支持体とを備えている。このスクレーパは車幅方向における中央部分にてボルトにより前記揺動支持体に着脱可能に取り付けられており、スクレーパはその先端部が転圧ローラの周面に摺接することにより転圧ローラの周面に付着した不純物を除去する。

40

また、この付着物除去装置は、スクレーパの一端側が摩耗した場合、スクレーパを上下反転させ、再度揺動支持体に取り付けることで、スクレーパの他端側を使用することができる。

【先行技術文献】

50

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2001-172907号公報

【特許文献2】特開平8-165610号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、特許文献1では、1枚のマットブラシが摩耗したら別のマットブラシに交換する必要があるが、マットブラシとしての寿命が短く、さらには交換の度にマットブラシをブラケットから引き抜き、再度取り付ける作業が面倒である。一般に、転圧ローラに用いるマットブラシは、転圧ローラ面の付着物の掻き落としやアスファルト合材の付着防止剤を転圧ローラ面に均一に塗り慣らすために、植物繊維等、ある程度の保水性を有するものが用いられている。このマットブラシはブラケットに紐や針金等で固定されるが、マットブラシの摩耗とともにこれらの紐等が露出し、擦り切れてしまうことがある。

10

【0006】

一方、特許文献2に記載の付着物除去装置においては、スクレーパ交換の際はスクレーパを上下方向に回転（反転）させる必要があるが、スクレーパを一旦車体から離して揺動支持体のプレートから取り外し、反転させた上で再びボルトにより取り付けなければならない。このため、交換の作業性に問題がある。

【0007】

20

本発明は、上記従来技術を考慮したものであって、マットブラシの長寿命化を図るとともに、転圧ローラに対するマットブラシの摺接面を容易に切り換えることができ、交換（切換）作業性を向上させた転圧機械を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

前記目的を達成するため、本発明では、車体の前後に配置され、車輪を兼用する転圧ローラと、該転圧ローラに摺接する摺接面を有するマットブラシと、前記車体に揺動部材を介して取り付けられ、前記マットブラシを保持するブラケットとを備えた転圧機械において、前記マットブラシは、前記摺接面を複数有し、前記ブラケットは、前記転圧ローラの軸心と平行に延び、周面を前記マットブラシで覆われる柱形状の保持部を有し、該保持部を前記揺動部材に対して締結する締結部材を有し、前記保持部は、前記締結部材による締結が緩められた状態で、長手方向の軸を中心に前記マットブラシとともに回動可能であることを特徴とする転圧機械を提供する。

30

【0009】

また、請求項2の発明では、前記マットブラシは、前記ブラケットを覆った状態で前記ブラケットに対して結束バンドを介して固定されていることを特徴としている。

また、請求項3の発明では、前記ブラケットは、正面視で車幅内に、且つ、前記転圧ローラよりも横方向にはみ出た結束領域を有し、前記結束バンドは、前記結束領域のみに配されていることを特徴としている。

【0010】

40

また、請求項4の発明では、前記マットブラシは、少なくとも一端が開口した袋形状をなし、前記保持部を覆うべく該開口にて前記保持部を受け入れ可能であることを特徴としている。

また、請求項5の発明では、前記マットブラシは、植物繊維で形成されていることを特徴としている。

【発明の効果】

【0011】

請求項1の発明によれば、マットブラシが複数の摺接面を有しているため、摺接面の数だけ転圧ローラの泥掻き等に用いることができる。使用に伴いマットブラシが劣化した場合は、締結部材を緩めて保持部ごとマットブラシを回動させて次の摺接面を利用できるの

50

で、簡単な構造で効率よく摺接面を切替えることができる。したがって、マットブラシの長寿命化を図るとともに、転圧ローラに対するマットブラシの摺接面を容易に切り換えることができ、作業性が向上する。

【 0 0 1 2 】

請求項 2 の発明によれば、マットブラシはブラケットを覆った状態でブラケットに対して結束バンドを介して固定されている。このため、マットブラシの使用中にマットブラシがブラケットから外れることを防止できる。

請求項 3 の発明によれば、ブラケットは、正面視で車幅内に、且つ、転圧ローラよりも横方向にはみ出た結束領域を有し、結束バンドは、結束領域のみに配されている。このため、転圧作業中にマットブラシの摺接面が摩耗しても結束バンドが擦り切れることはない。これにより、マットブラシが保持部から外れて舗装面上に脱落することを確実に防止でき、マットブラシの摺接面を有効に利用することができる。したがって、マットブラシの交換サイクルを長期化することができ、メンテナンス作業の効率を向上させることができる。

【 0 0 1 3 】

請求項 4 の発明によれば、マットブラシは、少なくとも一端が開口した袋状をなし、保持部を覆うべく該開口にて保持部を受け入れ可能である。このため、マットブラシを保持部（ブラケット）に容易に装着することができる。したがって、マットブラシの交換作業を容易に行うことができる。

請求項 5 の発明によれば、マットブラシは植物繊維で形成されている。したがって、取り扱い性がよく、特に保持部への装着や、転圧ローラの付着物の除去において好適に利用できる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 4 】

【図 1】本発明に係る転圧機械を示す側面図である。

【図 2】本発明に係る転圧機械の部分正面図である。

【図 3】図 2 の A - A 断面図である。

【図 4】ブラケット及びマットブラシの取り付け状態を示す概略斜視図である。

【図 5】マットブラシを結束バンドによりブラケットに固定した状態を示す概略断面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 5 】

以下、本発明に係る転圧機械について図面を参照して説明する。

図 1 を参照すると、本発明に係る転圧機械（転圧ローラ車両）1 は、車体 2 を備えている。この車体 2 はその前後に車輪を兼用するフロント転圧ローラ 4 f 及びリア転圧ローラ 4 r をそれぞれ有している。具体的には、フロント転圧ローラ 4 f は 3 つ、リア転圧ローラ 4 r は 4 つ配置され、これらフロント及びリア転圧ローラ 4 f、4 r は車体 2 の幅方向に並んでいる。

【 0 0 1 6 】

フロント転圧ローラ 4 f はそれぞれ軸 5 を介して車体 2 に固定されたヨーク装置 1 3 に回転可能に支持されている。詳しくは、このヨーク装置 1 3 はロアフレーム 1 5 とフロントヨーク 1 4 とを有している。フロントヨーク 1 4 は上に凸のアーチ形状を有し、フロントヨーク 1 4 の頂部が車体 2 の下面 2 a に取り付けられている。ロアフレーム 1 5 はフロントビーム 1 6、一対のサイドビーム 1 7 及びリアビーム 1 8 を含む。一対のサイドビーム 1 7 はフロント転圧ローラ 4 r 間を車体 2 の前後方向にそれぞれ延び、その両端同士がフロント及びリアビーム 1 6、1 8 にてそれぞれ連結されている。これらビーム 1 6、1 7、1 8 は互いに協働して車幅方向で見て真ん中に位置するフロント転圧ローラ 4 f を囲んでいる。フロントヨーク 1 4 はその両端にて車幅方向で見てフロント及びリアビーム 1 6、1 8 の中央部分を支持している。

【 0 0 1 7 】

各サイドビーム 17 には支持部材 19 がそれぞれ取り付けられている（図 3 参照）。これら支持部材 19 はフロント転圧ローラ 4 f の軸 5 より前方に位置付けられ、サイドビーム 17 の上面から上方に向かって延びている。この支持部材 19 は後述するフロント側のマットブラシ 54 を支持するためのものである。

また、車体 2 の上部中央には運転席 6 が配置されている。この運転席 6 に対しては車体 2 の側部に配設されたステップ 8 を利用して昇降することができる。

【 0 0 1 8 】

更に、車体 2 の後部にはタンク装置 10 が配置されている。このタンク装置 10 は燃料タンク及び作動油タンクから構成されている。一方、車体 2 の前部にはエンジンルーム 12 が設けられている。このエンジンルーム 12 内にはエンジン（図示しない）及び油圧ポンプ（図示しない）が配置されている。油圧ポンプはエンジンにより駆動され、転圧ローラ 4 の走行用モータ等に向けて作動油タンクに貯留されている作動油を供給する。

10

【 0 0 1 9 】

車体 2 の前端部及び後端部にはマットブラシ 54 がそれぞれ配置されている。これらブラシマット 54 は各フロント及びリア転圧ローラ 4 f、4 r にそれぞれ配置されている。また、これらマットブラシ 54 は各転圧ローラ 4 f、4 r の周面に付着した付着物を除去するとともに、このような付着物の付着を防止するため合材付着防止剤を転圧ローラ 4 の周面に均一に塗り慣らすものである。

【 0 0 2 0 】

以下、図 2 ～図 4 を参照して、フロント側のマットブラシ 54 について詳述する。

20

上述した支持部材 19 に固定部材 22 が取り付けられている。この固定部材 22 は車幅方向に互いに離間して配置された一対の板材からなる。これら板材は支持部材 19 の中央部分に対し、取付板 22 a 及びボルト 22 b を介して支持部材 19 と平行に取り付けられている。このため、固定部材 22 は隣り合うフロント転圧ローラ 4 f 間を上下方向に延びている。

【 0 0 2 1 】

固定部材 22 の上端部には揺動部材 24 が取り付けられている。この揺動部材 24 は固定部材 22 を挟み込む一対の板材からなり、これら板材はその基端にて連結ピン 26 を介して固定部材 22 に取り付けられている。また、これら板材は車体 2 の前方斜め下方に向かって互いに平行に延びている。したがって、揺動部材 24 は連結ピン 26 を中心として

30

回動（揺動）可能である。

【 0 0 2 2 】

また、揺動部材 24 は、ストッパ機構にてその回動を制限される。詳しくは、このストッパ機構はロッド（図示しない）と支持ステー 30 とを備えている。ロッドは長手方向でみて揺動部材 24 の中央部分にて揺動部材 24 の板材間に架け渡されている。一方、支持ステー 30 は固定部材 22 の下端部にてこれら板材間に架け渡されたピン 34 に回動可能に取り付けられ、揺動部材 24 内を車体 2 の前方に向かって延びている。また、この支持ステー 30 はその先端に U 字型の凹部を有し、この凹部はロッドと係合可能である。したがって、揺動部材 24 の下方への回動は支持ステー 30 の凹部にロッドを係合させることで制限される。

40

【 0 0 2 3 】

また、固定部材 22 の下端部と揺動部材 24 の先端部との間には引っ張りコイルばね 32 が架け渡されている。この引っ張りコイルばね 32 の両端は固定部材 22 及び揺動部材 24 の各板材から内方に向かって突設された突起（図示しない）にそれぞれ掛止されている。このため、引っ張りコイルばね 32 は揺動部材 24 の先端部に対して固定部材 22 の下端部の向きに付勢力を与えている。したがって、揺動部材 24 が上方に向けて回動されると、支持ステー 30 の凹部とロッドとの係合は解除される。この後、揺動部材 24 は支持ステー 30 に拘わらず、引っ張りコイルばね 32 により下方に向けて回動付勢される。

【 0 0 2 4 】

揺動部材 24 は持ち手となる取手 38 により上下方向に回動可能である。この取手 38

50

は、例えば棒形状を有し、揺動部材 2 4 の先端部にて一对の板材間に架け渡されている。

一方、揺動部材 2 4 の先端部にはブラケット 2 0 が取り付けられている。このブラケット 2 0 は、マットブラシ 5 4 を保持するための保持部 4 0 を有している。保持部 4 0 は、軸 5 0 を介して揺動部材 2 4 の先端部に取り付けられている。

【 0 0 2 5 】

保持部 4 0 は、例えば 3 枚の取付プレート 4 6 を筒状にして形成されている。保持部 4 0 の一方の端部は略三角形の板状のサイドカバー 4 2 で閉塞されている。サイドカバー 4 2 の中央領域には軸 5 0 が貫通可能な貫通孔（図示しない）が形成されている。また、サイドカバー 4 2 の外周部には 3 つの結合孔 4 8 が形成されており、これら結合孔 4 8 はサイドカバー 4 2 の各頂点間の中央部位に位置付けられている。

10

【 0 0 2 6 】

上述した各取付プレート 4 6 は略長形状であり、サイドカバー 4 2 の表面に、例えば溶接によりそれぞれ固定されている。詳しくは、各取付プレート 4 6 は協働してサイドカバー 4 2 の貫通孔を囲うようにして配置されている。また、各取付プレート 4 6 の短辺はサイドカバー 4 2 の各辺とそれぞれ平行に位置付けられ、更に、各取付プレート 4 6 の長辺はサイドカバー 4 2 の表面に対して垂直に延びている。このため、各取付プレート 4 6 はサイドカバー 4 2 と協働して一端が開口した中空の略三角柱を形成している。

【 0 0 2 7 】

一方、揺動部材 2 4 の一方の板材の外側面には取付座 3 6 が設けられている。取付座 3 6 には、この取付座 3 6 を貫通する取付孔（図示しない）が形成されており、この取付孔を軸 5 0 が挿通している。このため、軸 5 0 はフロント転圧ローラ 4 f の幅方向全域に亘って延びている。

20

サイドカバー 4 2 が取り付けられた端部に対し、保持部 4 0 の反対側の端部は、略三角形の板材からなる支持片 4 4 で覆われている。支持片 4 4 は保持部 4 0 の内壁に対応した形状を有する。したがって、支持片 4 4 は保持部 4 0 内では軸 5 0 を中心に回転不能である。支持片 4 4 の中央領域には軸 5 0 が螺合されている。軸 5 0 は、取付座 3 6 からサイドカバー 4 2 を通り、保持部 4 0 内を通して支持片 4 4 を貫通する。これにより、保持部 4 0 とサイドカバー 4 2 からなるブラケット 2 0 は揺動部材 2 4 に固定される。

【 0 0 2 8 】

軸 5 0 の先端側からナット 5 2 を締め付けることで、支持片 4 4 が固定され、保持部 4 0 の回転が規制される。すなわち、軸 5 0 とナット 5 2 で締結部材を形成し、保持部 4 0 はナット 5 2 を介して軸 5 0 に締結されている。ナット 5 2 を緩めると、支持片 4 4 が回転可能になり、これとともにブラケット 2 0 が回転する。このとき、サイドカバー 4 2 はフロント転圧ローラ 4 f の側縁より外側、即ち、周面と対向しない位置に位置付けられている。

30

【 0 0 2 9 】

上述の説明から明らかなように、保持部 4 0 は軸 5 0 に回転可能に支持されている。保持部 4 0 の取付プレート 4 6 の表面はフロント転圧ローラ 4 f の周面に対する対向面となっている。このため、保持部 4 0 を軸 5 0 回りに回転させることで、各取付プレート 4 6 の表面をフロント転圧ローラ 4 f の周面に順次対向させることができる。

40

また、この保持部 4 0 にはフロント転圧ローラ 4 f の周面と摺接可能なマットブラシ 5 4 が装着可能である。例えば、マットブラシ 5 4 は食物繊維により植毛され、一端が開口した袋状に形成されている。マットブラシ 5 4 はこの開口から保持部 4 0 を受け入れることで保持部 4 0 に装着される。この場合、マットブラシ 5 4 もまた略三角柱形状を有する。即ち、マットブラシ 5 4 は取付プレート 4 6 の表面に対応する 3 つの摺接面を有している。なお、マットブラシ 5 4 はサイドカバー 4 2 によって、揺動部材 2 4 側への移動を制限されている。

【 0 0 3 0 】

マットブラシ 5 4 は結束バンド 5 6 を介して保持部 4 0 に固定されている。詳しくは、図 5 に示されるように、結束バンド 5 6 はマットブラシ 5 4 の開口側端部にてマットブラ

50

シ 5 4 を貫通し、その一端が前述の結合孔 4 8 に通される一方、その他端はサイドカバー 4 4 の外周縁部を乗り越えて、更にサイドカバー 4 4 と揺動部材 2 4 との間の間隙にて結束バンド 5 6 の両端が結び付けられることで、マットブラシ 5 4 は保持部 4 0 に確実に固定されている。上述したマットブラシ 5 4 の開口側端部は、正面視で転圧ローラ 4 f よりも横方向にはみ出た結束領域であり、結束バンド 5 6 は、この結束領域のみに配されていることになる。

【 0 0 3 1 】

更に、マットブラシ 5 4 の近傍には散水装置 6 0 が設けられ、この散水装置 6 0 は水及び溶剤の供給配管としての一对のパイプ 6 2 を備えている。これらパイプ 6 2 はマットブラシ 5 4 の近傍を車体 2 の幅方向に平行に延び、取付具 6 4 を介して支持部材 1 9 の先端部に取り付けられている。

10

詳しくは、取付具 6 4 は支持部材 1 9 の先端部にボルト 6 4 b を介して取り付けられた取付板 6 4 a と、この取付板 6 4 a に対してパイプ 6 2 を押さえ付ける押さえ片 6 4 c とからなる。これら押さえ片 6 4 c はボルト 6 4 b により取付板 6 4 a に固定されている。パイプ 6 2 のそれぞれにはフロント転圧ローラ 4 f の周面に向けて噴出ノズル 6 6 が配置されており、これら噴出ノズル 6 6 はフロント転圧ローラ 4 f の周面に水又は溶剤を噴出する。なお、この散水装置 6 0 の噴出ノズルはリア側のマットブラシ 5 4 の近傍にも同様にして設けられていることは言うまでもない。

【 0 0 3 2 】

前述したように揺動部材 2 4 のロッド 2 8 が支持ステー 3 0 に係合されているとき、マットブラシ 5 4 は休止位置にあって、そのマットブラシ 5 4 は対応するフロント転圧ローラ 4 f の周面から上方に離間している。この状態から、作業者が取手 3 8 を掴み、揺動部材 2 4 を引っ張りコイルばね 3 2 の付勢力に抗して上方に一旦回動させ、支持ステー 3 0 の凹部とロッド 2 8 との係合を解除すれば、揺動部材 2 4 は引っ張りコイルばね 3 2 の付勢力を受けて下方に回動される。これにより、マットブラシ 5 4 はフロント転圧ローラ 4 f の周面に当接した作業位置となる。この場合、マットブラシ 5 4 は保持部 4 0 を含む自重によりフロント転圧ローラ 4 f の周面と当接している。

20

【 0 0 3 3 】

したがって、転圧ローラ車両 1 の転圧作業中、マットブラシ 5 4 の 3 つのうち 1 つの摺接面がフロント転圧ローラ 4 f の周面と摺接するとともに、散水装置 6 0 の噴出ノズル 6 6 からフロント転圧ローラ 4 f の周面に噴出される水又は溶剤により、フロント転圧ローラ 4 f の周面に付着した付着物が除去される。

30

このような転圧作業において、マットブラシ 5 4 の 1 つの摺接面が摩耗し、その厚さが減少した場合、作業者はナット 5 2 を緩め、保持部 4 0 をマットブラシ 5 4 とともに回動させることで、マットブラシ 5 4 の他の摺接面、即ち、新しい摺接面をフロント転圧ローラ 4 f の周面に対向させることができる。その後、ナット 5 2 を締め付けることで、前述の作業位置に戻すことができる。

【 0 0 3 4 】

上述したように、マットブラシ 5 4 は保持部 4 0 に脱着可能に装着されているとともに、この保持部 4 0 はフロント転圧ローラ 4 f の周面と対向すべく複数の取付プレート 4 6 、即ち、対向面を有している。また、これらの対向面は軸 5 0 回りに保持部 4 0 を回動させることでフロント転圧ローラ 4 f の周面と順次対向させることができる。したがって、保持部 4 0 の対向面、即ち、マットブラシ 5 4 の摺接面を簡単に切り換えることができるとともに、マットブラシ 5 4 の交換サイクルを長期化することができ、メンテナンス作業の効率を向上させることができる。

40

【 0 0 3 5 】

また、サイドカバー 4 2 はフロント転圧ローラ 4 f の周面と対向しない位置に位置付けられているから、結束バンド 5 6 がフロント転圧ローラ 4 f の周面と摺接することはない。このため、転圧作業によりマットブラシ 5 4 の摺接面が摩耗しても、結束バンド 5 6 が擦り切れることはなく、マットブラシ 5 4 が保持部 4 0 から舗装面上に脱落することはな

50

い。つまり、マットブラシ 5 4 の摺接面は転圧作業に有効に使用される。したがって、マットブラシの交換サイクルを長期化することができ、メンテナンス作業の効率を向上させることができる。

【 0 0 3 6 】

更に、マットブラシ 5 4 は食物繊維により植毛され、一端が開口した袋状に形成されているので、作業者はマットブラシ 5 4 を保持部 4 0 へ容易に装着できるとともに、マットブラシ 5 4 に結束バンド 5 6 を貫通させ、マットブラシ 5 4 をサイドカバー 4 2 に容易に固定することができる。したがって、マットブラシ 5 4 のメンテナンス作業の効率は向上する。

【 0 0 3 7 】

以上で本発明の一実施形態についての説明を終えるが、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の実施形態を逸脱しない範囲で種々の変更ができる。

例えば、保持部 4 0 の対向面、即ち、取付プレート 4 6 は 3 枚に限らず、任意の数を設定可能である。この場合、サイドカバー 4 2 は取付プレート 4 6 の数に対応した多角形であり、各取付プレート 4 6 と対応する外周部に結合孔 4 8 を有していることが望ましい。この結果、マットブラシ 5 4 をその摺接面毎にサイドカバー 4 2 、即ち、保持部 4 0 に確実に固定することができる。また、保持部 4 0 の形状にかかわらず、マットブラシ 5 4 の外形を多面とし、保持部 4 0 に取り付け可能としてもよい。

【 0 0 3 8 】

また、マットブラシ 5 4 は結束バンド 5 6 を介して保持部 4 0 に固定されているが、結束バンド 5 6 に限らず、マットブラシ 5 4 を保持部 4 0 に確実に固定できるものであればよい。

また、結合孔 4 8 は保持部 4 0 のサイドカバー 4 2 だけでなく、例えば、取付プレート 4 6 又は支持片 4 4 に設けられていてもよい。この場合、マットブラシ 5 4 を複数の箇所

【 0 0 3 9 】

また、マットブラシ 5 4 はその両端が開口していてもよい。この場合、マットブラシ 5 4 の向きによらず保持部 4 0 に装着可能であるので、メンテナンス作業の効率が向上する。

更に、マットブラシ 5 4 は袋状に限らず板状であってもよい。この場合、マットブラシ 5 4 を保持部 4 0 の対向面、即ち、取付プレート 4 6 と同数準備し、各取付プレート 4 6 に取り付けるようにしてもよい。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 0 】

- 1 転圧ローラ車両（転圧機械）
- 2 車体
- 2 a 下面
- 4 転圧ローラ（車輪）
- 5 軸
- 6 運転席
- 8 ステップ
- 1 0 タンク装置
- 1 2 エンジンルーム
- 1 3 ヨーク装置
- 1 4 フロントヨーク
- 1 5 ロアフレーム
- 1 6 フロントビーム
- 1 7 サイドビーム
- 1 8 リアビーム
- 1 9 支持部材

10

20

30

40

50

2 0	ブラケット	
2 2	固定部材	
2 2 a	取付板	
2 2 b	ボルト	
2 4	揺動部材	
2 6	連結ピン	
3 0	支持ステー	
3 2	引っ張りコイルばね	
3 4	ピン	
3 6	取付座	10
3 8	取手	
4 0	保持部	
4 2	サイドカバー	
4 4	支持片	
4 6	取付プレート（対向面）	
4 8	結合孔	
5 0	軸	
5 2	ナット	
5 4	マットブラシ	
5 6	結束バンド	20
6 0	散水装置	
6 2	パイプ	
6 4	取付具	
6 4 a	取付板	
6 4 b	ボルト	
6 4 c	押さえ片	
6 6	噴出ノズル	

【図 5】

